

# 令和3年度 事業者防災訓練実施計画（案）

令和3年12月24日

原子燃料工業株式会社 熊取事業所

## 1. 訓練計画概要

### 1. 1 中期計画上の令和3年度訓練の位置づけ

2020年度（令和2年度）の訓練は、中期計画（2019年度～2023年度）の2年目に当たり、緊急対策本部内での確実な情報の伝達、ERC対応活動の向上、発災場所の放射線に関する情報の共有の実施を主眼とした訓練を行った。

具体的には緊急対策本部内での活動に活用するクロノロジー共有システムの入力ルールの変更、共通状況図（COP）の見直しをすることで、事象の把握及び対策活動の方向性を緊急対策本部室全体で共有することができた。また必要な図面等を整備しERC保管資料を充実させたことによりERCとの情報共有を円滑に進めることができ、改善を図ることができた。その一方、緊急対策本部において得べき情報の不足や共通状況図（COP）策定後の情報がタイムリーに提供できないという課題や、記者会見で使った言葉が専門的すぎたことから、記者を通して広く一般に理解されるように説明する必要があるという課題が抽出された。

今年度は2022年度に計画している完全ブラインド訓練に向け、シナリオの非提示部分を拡大した訓練を行うことにより、上記課題が十分に解決できるか確認する。

### 1. 2 訓練の目的

原子力事業者防災業務計画第2章第7節第1項に基づき、社員及び事業所関係者に対する原子力防災への意識付けを行い、原子力防災技能の習得及び向上を図るとともに、原子力防災組織が有効に機能することを確認することである。主たる検証項目及び達成目標を以下に示す。

### 1. 3 主たる検証項目及び達成目標

主たる検証項目は次のとおりとする。なお、評価者が用いる「原子力防災訓練評価シート」にこれらの検証項目を網羅し、達成度を評価する。

#### 【検証項目1】緊急対策本部活動等における確実な情報伝達

（7. 前回までの訓練の課題に対する改善 前回までの訓練課題 No. 1 及び No. 2）

#### 【達成目標】

改善を実施した共通運用図（COP）を活用し、緊急対策本部内での情報が必要なところにタイムリーに提供され情報共有されている。

#### 【検証項目2】ERCへの迅速な対応

（7. 前回までの訓練の課題に対する改善 前回までの訓練課題 No. 3）

#### 【達成目標】

進展の早い火災及びウラン漏えい事象について、基本戦略や初動対応の措置手順がテンプレート化され、ERCからの事故収束対応に関する質問にスムーズに回答できている。

【検証項目3】記者会見における記者会見対応能力の向上

(7. 前回までの訓練の課題に対する改善 前回までの訓練課題 No. 4)

【達成目標】

専門用語は平易な言葉で説明できるプレス文の補足資料が準備され、記者を通して広く一般に理解されるような説明ができています。

2. 訓練実施日時及び対象施設

2. 1 実施日時

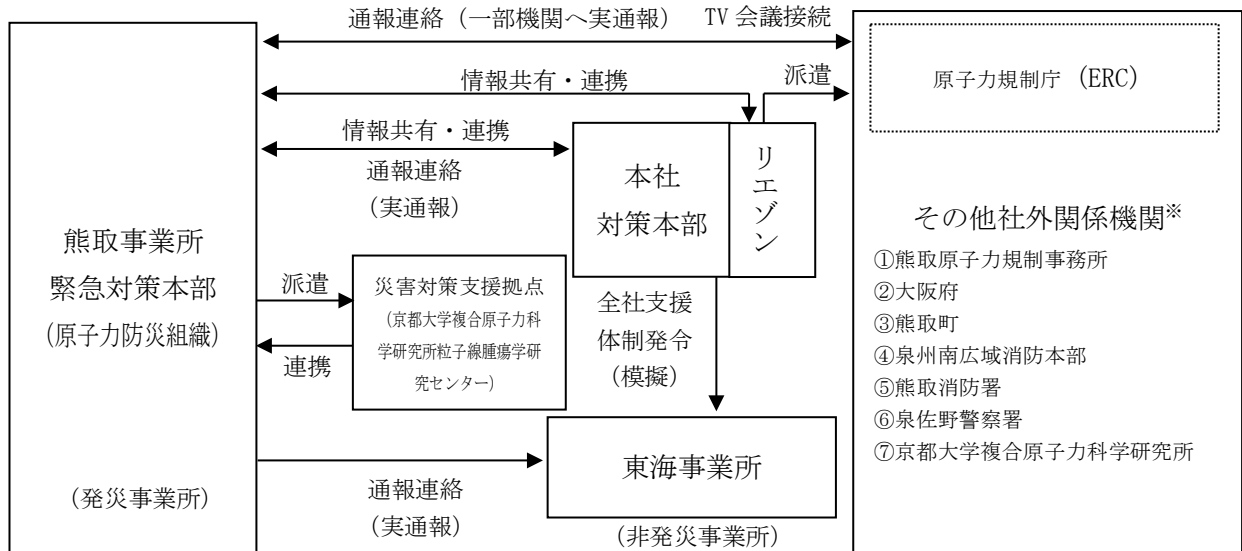
令和4年1月28日(金) 13:10~16:30

2. 2 対象施設

- ・事務棟 (緊急対策本部)
- ・保安棟 (代替緊急対策本部及び警備員詰所)
- ・第2加工棟 (発災想定建屋)
- ・京都大学複合原子力科学研究所 粒子線腫瘍学研究センター (原子力事業所災害対策支援拠点)

3. 実施体制及び評価体制並びに参加人数

3. 1 実施体制



※原子力事業者防災業務計画に基づく通報先として、内閣府 (内閣総理大臣)、原子力規制庁緊急事案対策室、熊取原子力規制事務所 (原子力防災専門官、原子力運転検査官)、大阪府、熊取町、泉佐野市、泉州南広域消防本部、内閣官房 (内閣情報集約センター)、内閣官房 (内閣官房副長官補 (事態対処・危機管理担当) 付)、内閣府政策統括官 (原子力防災担当) 付参事官 (総括担当) 付、熊取消防署、経済産業省資源エネルギー庁電力・ガス事業部原子力立地・核燃料サイクル産業課、経済産業省近畿経済産業局総務企画部総務課、貝塚市、大阪府警察本部、泉佐野警察署、岸和田海上保安署、岸和田労働基準監督署、京都大学複合原子力科学研究所を定めている。本訓練においては上図①~⑥の6ヶ所を通報先とし、⑦京都大学複合原子力科学研究所は原子力防災要員の派遣及び防災資機材貸与の協力要請についての連絡先とする。

### 3. 2 評価体制

- ・熊取事業所の訓練設計者から 2 名評価者を選出するほか、他原子力事業者から訓練評価者を受け入れ、対象施設に配置する。
- ・訓練の達成目標を踏まえ、あらかじめ設定した「原子力防災訓練評価シート」別紙 1 に基づき評価を行う。

### 3. 3 参加者 (予定)

参加者：276 名 (プレーヤ 267 名 (リエゾン 3 名含む)、コントローラ 9 名)  
参加率：95%以上を目標とする。【参加者数 (プレーヤ+コントローラ) / 訓練対象者数】

### 3. 4 緊急対策本部レイアウト及び情報フロー

別紙 2 「緊急対策本部室レイアウト図」、別紙 3 「情報フロー図」 のとおり。

### 3. 5 原子力防災要員の役割分担

別紙 4 「原子力防災要員の役割分担」 のとおり。

## 4. 訓練想定

### (1) 前提条件

- ・平日日中を想定する。
- ・加工工場内の生産設備において燃料生産が実施されている。
- ・加工工場内の給排気設備及び放射線監視設備は稼働している。なお、第 1 廃棄物貯蔵棟の給排気設備の稼働状況は、当日の状況に従う。
- ・天候、風向、風速等の気象状況は、当日の気象観測データ (実測値) に基づく。
- ・シナリオ詳細非提示型 (原災事象の発生タイミング及び内容は非提示。基本内容のみ事前提示)

### (2) 起因事象

大地震の発生 (大阪府熊取町及び事業所で震度 6 弱)

### (3) 想定事象

[Redacted content]

(4) スキップの有無

訓練途中での時間スキップは行わない。

## 5. 訓練項目及び内容

### (1) 避難誘導訓練

- ・非常放送設備により構内全域に一斉避難指示を行う。
- ・指定避難場所への速やかな避難及び点呼を行う。

### (2) 緊急対策本部活動訓練

- ・避難・点呼実施後、速やかに防災組織要員を招集し、緊急対策本部を設置する。
- ・大津波警報の発表を踏まえた適切な原子力事業所災害対策支援拠点の選定、資機材運搬及び立上げを行う。
- ・情報の収集、集約及び共有を効果的に実施する。
- ・停電や断水に対し、適切な措置を講じる。
- ・適切な放射線測定を実施し、測定結果に基づいて施設敷地緊急事態 (SE) 及び全面緊急事態 (GE) を判断する。
- ・災害収束に向けた適切な応急復旧計画を検討し、策定する。
- ・防災各係間で連携・協力を図る。
- ・本部と ERC 対応ブース間の円滑な情報伝達により、ERC に事象発生、進展予測、事故収束活動等について速やかに報告する。(クロノロジー共有システム及びERC 情報提供テンプレートの活用)
- ・ERC との TV 会議接続に障害が発生した場合には、代替手段を用いて情報共有を行う。

### (3) 通報訓練

- ・震度 6 弱の地震発生及び大津波警報発令に伴い、警戒事態 (AL) を判断し、指定様式により関係機関へ連絡する。また、その後の経過を連絡する。
- ・施設敷地緊急事態 (SE) 及び全面緊急事態 (GE) を判断してから 15 分以内に指定様式により関係機関へ通報する。また、事象の進展に応じて応急措置の概要報告を関係機関に通報する。

### (4) モニタリング訓練

- ・原子力防災資機材として配備する計測器により放射線モニタリングを行う。
- ・当日の気象観測データを踏まえ、環境への放射線影響範囲の評価を行う。

### (5) 応急措置 (拡大防止措置) 訓練

- ・排気ダストモニタの指示値上昇に応じて、適切な防保護具の着用及び給排気設備の停止を判断する。
- ・排気ダストモニタ指示上昇値の原因を推定し、事故収束戦略を立案する (事象別の事故収束戦略)

テンプレートの活用)。

- ・加工工場排気口からの放射性物質放出量の算出及び汚染範囲を推定し、回収及び除染を行う。また、そのために必要な防保護具を選択し着用する。

#### (6) 救護訓練

- ・広域災害により、救急車が出動できない状況下で、管理区域外で発生した負傷者の救護を適切かつ速やかに実施する。

#### (7) プレス対応訓練

- ・限られた時間内に正確な情報に基づいたプレス発表資料を作成する。
- ・緊急対策本部からプレス対応派遣者に対して発表資料や情報を適切に提供する。
- ・プレス発表資料に基づき、適切に発表するとともに記者との質疑応答に適切に対応する。

#### (8) 新型コロナウイルス感染症対策の考慮

- ・緊急対策本部内の要員を分散させる。(原子力防災要員は、別室で待機する。緊急対策本部の状況はWeb会議システム等により別室で共有する)
- ・緊急対策本部室及び待機用の別室はマスク着用とし、定期的に換気を実施する。
- ・大声を出さないことを室内に明示するとともに、緊急対策本部室内では各係用の備付けマイクを活用するよう訓練説明会で周知する。

### 6. 訓練シナリオ案及びCOP様式

別紙5「2021年度熊取事業所原子力防災訓練キー事象及び主な活動の推移」、別紙6-1～別紙6-8「COP様式」のとおり。

### 7. 前回までの訓練の課題に対する改善(対策)状況

No.	前回までの訓練の課題	改善(対策)状況
1	<b>【緊急対策本部活動訓練】</b> ＜ERC対応活動＞ (1) 共通運用図 COP1 事故・プラント状況に含まれていない対象設備があった。 (2) 共通運用図 COP6 事故収束対応シートに作業開始/終了時刻を記載しているが、シートを見ただけでは、それが予定なのかわからない。また所要時間がわかりづらい。	(1) 共通運用図 COP1 事故・プラント状況に、網羅的に事故発生時の状況を把握するため、核燃料物質等を取り扱う施設を追加した。 (2) 共通運用図 COP6 事故収束対応シートに、作業時間の予定/実績及び所要時間の記入欄を追加した。  [令和3年7月の総合訓練(消防訓練)事前説明会で周知し、総合訓練(消防訓練)で検証した。] [上記対策の結果、ERC保管資料に最新版を反映予定。]

No.	前回までの訓練の課題	改善（対策）状況
2	<p><b>【緊急対策本部活動訓練】</b> 各種 COP の策定後、総務広報係が集約して対策本部内で共有化することとしていたが、集約前の段階で COP の写しを要求・指示する場面があった。</p>	<p>情報（COP 等）の流れを整理し、必要なところにタイムリーに情報が提供できるよう、情報の流れについてルールを見直し周知徹底した。</p> <p>[上記対策は、令和 3 年 2 月に関係者に周知済み。ルールを見直し、令和 3 年 7 月の総合訓練（消防訓練）で検証した。令和 3 年 12 月の訓練事前説明会及び個別訓練でも再周知を予定。]</p>
3	<p><b>【緊急対策本部活動訓練】</b> 火災やウラン漏えい事象などの進展の早い事象の発生について、ERC からの事故収束対応に関する質問に即座に回答できない場面があった。</p>	<p>進展の早い火災及びウラン漏えい事象について、基本戦略や初動対応の措置手順等をあらかじめテンプレート化した。</p> <p>[上記対策は、令和 3 年 7 月の総合訓練（消防訓練）で火災に対する措置手順をテンプレート化し検証済。ウラン漏えい事象に対する措置手順のテンプレートは令和 4 年 1 月の総合防災訓練で活用予定。]</p>
4	<p><b>【プレス訓練】</b> 記者会見で使った言葉が専門的すぎる。記者を通して、広く一般に理解されるように説明する必要がある。</p>	<p>専門用語は平易な言葉で補足説明できるようにプレス文の補足資料等を準備するとともに、個別訓練等を通じて記者会見対応能力の向上を図る。</p> <p>[上記対策は、令和 3 年 7 月の個別訓練、総合訓練（消防訓練）でプレス文の補足資料を拡充。令和 4 年 1 月の個別訓練で記者会見対応能力向上に資する教育を関係者に実施予定。]</p>

#### 8. ERCプラント班との情報共有に用いる資料・様式及びERC書架内の資料整備状況（資料リスト）

No.	資料名
1	原子力事業者防災業務計画
2	核燃料物質の加工の事業に係る保安規定
3	核燃料物質の加工事業許可申請書及び変更許可申請書
4	核燃料物質の使用許可申請書及び変更許可申請書
5	施設配置図
6	ERC 保管資料

以上

原子力防災訓練評価シート【熊取事業所】

別紙 1

【評価場所】  
 ①緊急対策本部室、保安棟警備員詰所、ERC対応ブース  
 ②第2加工棟内  
 ③発災現場付近(ウラン回収場所含む)  
 ★は昨年度の課題に対する評価

【訓練名】令和3年度原災法訓練  
 【訓練年月日】令和4年 1月28日  
 【評価者】  
 【評価場所】緊急対策本部室・ERC対応ブース・発災加工棟内、発災加工棟周辺・  
 第2-1粉末貯蔵庫内・その他( )

令和4年 1月28日

1.地震発生時刻: 時 分      2. 避難指示放送時刻: 時 分      25. 緊急事態発令: 時 分

熊取防災管理部会

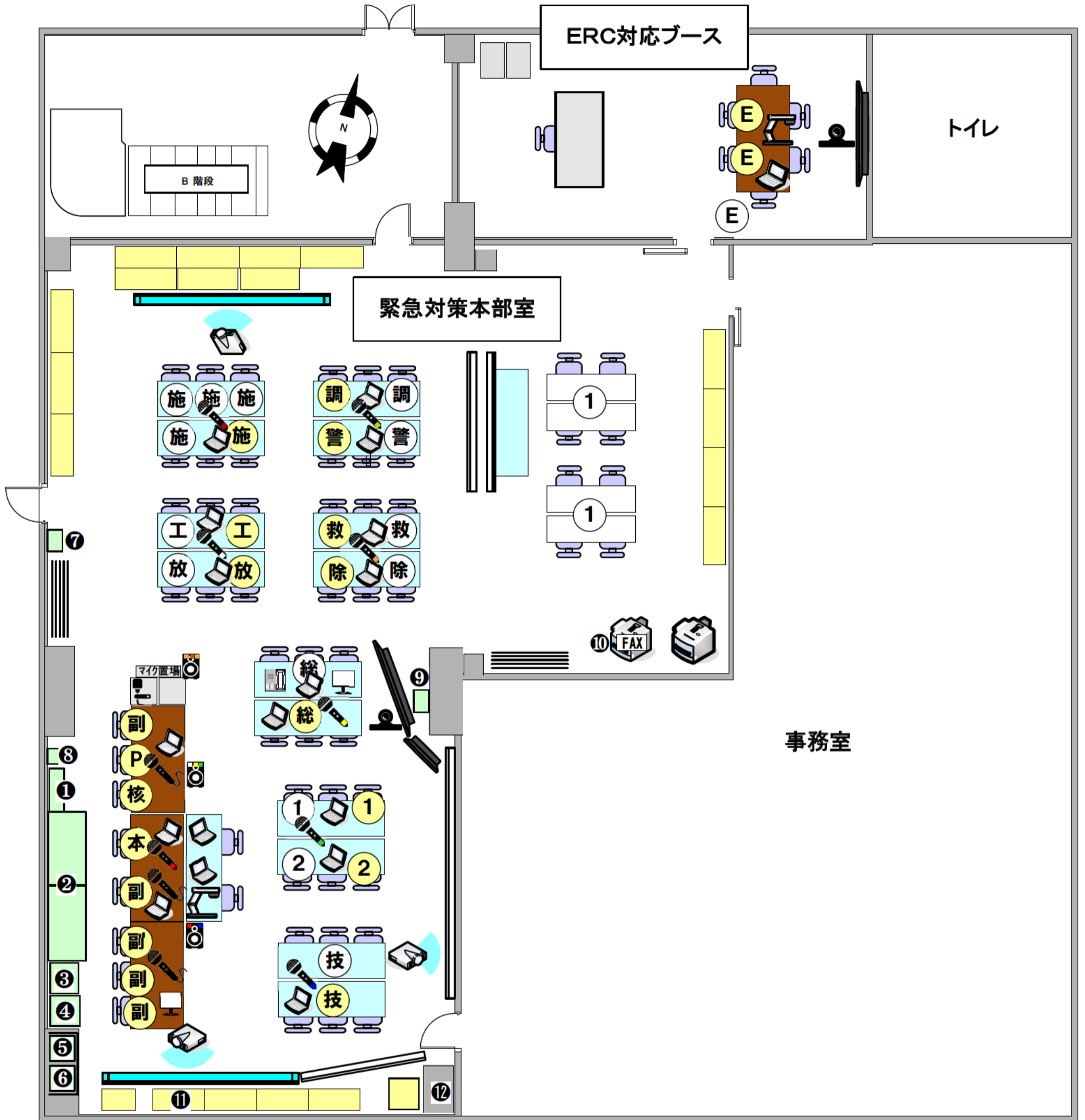
No.	事象・活動	チェックポイント	対象	判定(○良好 △可 ×不可)	評価	気づき
1	地震発生(震度6弱)	避難開始の構内放送時期、放送内容及び声の大きさ、聞き取りやすさは適切だったか。	警備員	( )		
2	緊急対策本部設置	迅速(避難指示放送後10分以内)に緊急対策本部が設置されたか。 緊急対策本部設置宣言時刻: 時 分 (所要時間の実績: 分)	緊急対策本部	( )		
3		地震発生後の施設・設備点検の確認指示が迅速に行われたか。	緊急対策本部	( )		
4	事務棟及び保安棟の健全性確認	建屋の健全性確認が迅速(避難指示放送後10分以内)に行われたか。 点検結果報告時刻: 時 分 (所要時間の実績: 分)	工務係	( )		
5	避難・点呼	避難後点呼が迅速(避難指示放送後10分以内)に行われたか。 点呼終了時刻: 時 分 (所要時間の実績: 分)	全員	( )		
6	警戒事態(AL)連絡	地震(震度6弱)発生の連絡を「防災業務計画様式7-1」を用い第1報として、地震発生後30分以内を目途に連絡できたか。 第1報FAX発信時刻: 時 分 (所要時間の実績: 分)	情報1係	( )		
7	ライフライン等の確認	工務係へ非常用発電機の稼働状況指示を行ったか。	緊急対策本部 工務係	( )		
8		その他のライフラインの状況確認指示を行ったか。	緊急対策本部 工務係	( )		
9		必要物資を検討し、緊急対策本部へ提案したか。	調達係	( )		
10	警戒事態(AL)連絡	大津波警報の連絡を「防災業務計画様式7-1」を用いて連絡できたか。 FAX発信時刻: 時 分 *第1報の地震発生の連絡と同時の場合あり	情報1係	( )		
11	緊急対策本部活動	災害対策支援拠点(京都大学)への資機材運搬及び立ち上げ指示が行われたか。	緊急対策本部	( )		
12		災害対策支援拠点(京都大学)から、立ち上げ完了の連絡がされたか。	支援拠点担当 緊急対策本部	( )		
13		本社にERCヘリエゾンの派遣について要請したか。	緊急対策本部	( )		
14		OFCへの派遣準備の指示が行われたか。	緊急対策本部 情報2係	( )		
15		クロノロジー共有システムがタイムリーに更新され、有効に活用されたか。	情報2係	( )		
16		★誤った情報と判明した時点で、直ちに修正報告されていたか。	各係	( )		
17		各係からの報告は5W1Hに則って報告されているか。	各係	( )		
18	負傷者対応 管理区域外	負傷者発生が速やかに報告され、救助指示が行われたか。 負傷者発生報告時刻: 時 分	緊急対策本部 救護消防係	( )		
19		救急車要請に時間を要するとの情報を入手後、代替えの手段等適切な指示が出されたか。	緊急対策本部 警備誘導係	( )		
20	ウラン粉末放出の対応	放射性物質の放出による影響と対応について明確に各係に指示が出されたか。	緊急対策本部	( )		
21		空気中放射性物質濃度測定値とSE,GE判断基準値の関係を速やかに緊急対策本部へ報告したか。	放管係 緊急対策本部	( )		
22		全所員に対し速やかに屋内退避指示が出されたか。	緊急対策本部	( )		
23		屋外作業員への防護具の種類について適切に指示が行われたか。	緊急対策本部 放管係	( )		
24		★COPの作成時及び改訂時は速やかに緊急対策本部内、ERC対応者、リエゾンに共有されているか。	施設責任者 技術係 緊急対策本部	( )		
25	施設敷地緊急事態(SE)、 全面緊急事態(GE)、 10条通報、25条報告	原子力防災管理者は特定事象の判断を正確に行った後、緊急事態発令を速やかに行ったか。 緊急事態発令時刻(特定事象であると判断) SE: 時 分 GE: 時 分	原子力防災管理者	( )		
26		緊急事態発令後、緊急作業員の指名及び意思確認が対象者全員に実施できたか。	原子力防災管理者	( )		
27		SE02の発生を、防災業務計画様式8を用いて、速やかに、且つ、正確に(緊急事態発令後15分以内を目途)FAX通報できたか。 FAX発信時刻: 時 分 (所要時間の実績: 分)	情報1係	( )		
28		GE02の発生を、防災業務計画様式8を用いて、速やかに(緊急事態発令後15分以内を目途)FAX通報できたか。 FAX発信時刻: 時 分 (所要時間の実績: 分)	情報1係	( )		
29		放管係に対し風向、風速を考慮した敷地境界及び敷地内のモニタリングの指示を行ったか。	技術係 放管係	( )		
30		屋外に放出したウラン粉末の量(推定量)についての検討がなされ関係者へ周知したか。	技術係	( )		



原子力防災訓練評価シート【熊取事業所】

32	施設敷地緊急事態(SE)、 全面緊急事態(GE)、 10条通報、25条報告	SE02、GE02の経過報告(AL警戒事態も含む)を、防災業務計画様式10を用いて、適切な間隔(おおよそ30分)で実施できたか。	情報1係	( )		
33		SE05、GE05収束後の最終報告を、防災業務計画様式10を用いて実施できたか。	情報1係	( )		
34		通報連絡文書作成において相互チェックで通報連絡内容を確認したか。	緊急対策本部 情報1係	( )		
35	緊急対策本部活動	OFC派遣 OFCへの派遣指示は適切であったか。	緊急対策本部	( )		
36		各派遣に対して、適宜情報提供はなされたか。	緊急対策本部	( )		
37	モニタリング、ウラン粉末 回収、除染	モニタリング値の報告は適時行われたか。(環境モニタリングの測定結果について、周辺環境影響の有無を含む)	放管係	( )		
38		モニタリングポスト値以外の放射線に関する測定値を緊急対策本部内で共有できたか。	放管係	( )		
39		現場におけるモニタリングの結果はチェックシートに記録後、本部へ報告しているか。	放管係	( )		
40		汚染エリアに関する情報の表示は適切に行われたか。	放管係	( )		
41		汚染範囲の同定と一時的な管理区域の設定はなされたか。	放管係	( )		
42		一時的な管理区域への出入管理及びチェン징エリアの活用は適切だったか。	除染係 放管係	( )		
43		ウラン粉末回収に当たっての装着防護具を含めた指示は作業員に適切に伝わったか。	放管係	( )		
44		回収したウランの保管先は明確になっていたか。	除染係 緊急対策本部	( )		
45		ウラン粉末の回収に当たっては、シート等により飛散防止・汚染拡大防止の措置が講じられていたか。	除染係	( )		
46		拡大防止/応急措置/復 旧計画	本部長は原子力災害の拡大防止を図るため、外部扉の目張りの実施を指示したか。	緊急対策本部 工務係	( )	
47	ウラン粉末の回収及び除染完了したことを報告できたか。		除染係	( )		
48	★ウラン漏えい事象に対し、基本戦略や初動対応の検討が迅速に実施されていたか。(テンプレート等の活用を含む)		技術係			
49		ダストサンブラのろ紙を交換し、特定事象の基準値未満になったことを報告できたか。	放管係	( )		
50	ERC対応	ERCプラント班とのTV会議システムはスムーズに接続できたか。	ERC対応者	( )		
51		TV会議システムに不具合が発生した場合の代替え対応(携帯電話使用)が速やかに行われたか。	ERC対応者	( )		
52		SE02、GE02所内確定後、ERCに対し判断基準値等(SE02、GE02)を含め、速やかに口頭報告を行ったか。	ERC対応者	( )		
53		図や資料を用いてわかりやすく説明を行ったか。	ERC対応者	( )		
54		★マイクの位置、発音、話す速度及び書画で説明するときの指棒の固定など、ERCに対しストレスを与えないような対応ができたか。	ERC対応者	( )		
55		積極的にプラント状況及び時系列の整理について説明を行ったか。	ERC対応者	( )		
56		説明と異なる戦略や対応となった場合、理由を含め変更点を説明していたか。	ERC対応者			
57		★事故収束対応に関する質問にスムーズに回答できていたか。	ERC対応者	( )		
58	リエゾン	ERCの状況(雰囲気)を適切なタイミングで事業所担当者へ連絡し、必要な指示が出せたか。	リエゾン	( )		
59		ERCからの質問、指示に対し、適切に回答又は必要に応じて事業所担当者へ回答を求めたり、ERCに対しストレスを与えないような対応ができたか。	リエゾン	( )		
60	プレス対応	プレス会見は予定時間通りに開始できたか。	総務広報係	( )		
61		プレス対応者の態度の基本5項目(表情、態度、姿勢、服装、ヘア)は適切であったか。	プレス対応者	( )		
62		メインスポークスパーソンとサブスポークスパーソンの役割分担は適切であったか。	プレス対応者	( )		
63		プレス発表文の内容は十分であったか。		( )		
64		・事実、経過、原因、対策	プレス対応者	( )		
65		・見解(結論)		( )		
66		プレス発表文には以下が記載されていたか。		( )		
67		・事故の種類		( )		
68		・モニタリングポスト指示値及び気象状況等	プレス対応者	( )		
69		・加工施設の状況		( )		
70		・検出された放射性物質の状況		( )		
71		・主な施設・設備の状態等		( )		
72		会見の時間配分は適切であったか。	プレス対応者 総務広報係	( )		
73		★記者の質問に対し、質問の意図を理解して的確かつ平易な言葉で回答したか。	プレス対応者	( )		
74	不適切な発言(禁句等)はなかったか。(禁句例:いろいろ事情があつて/お騒がせしました/知らなかった/ありがとうございました等)	プレス対応者	( )			

# 緊急対策本部／ERC対応ブースレイアウト



## 凡例

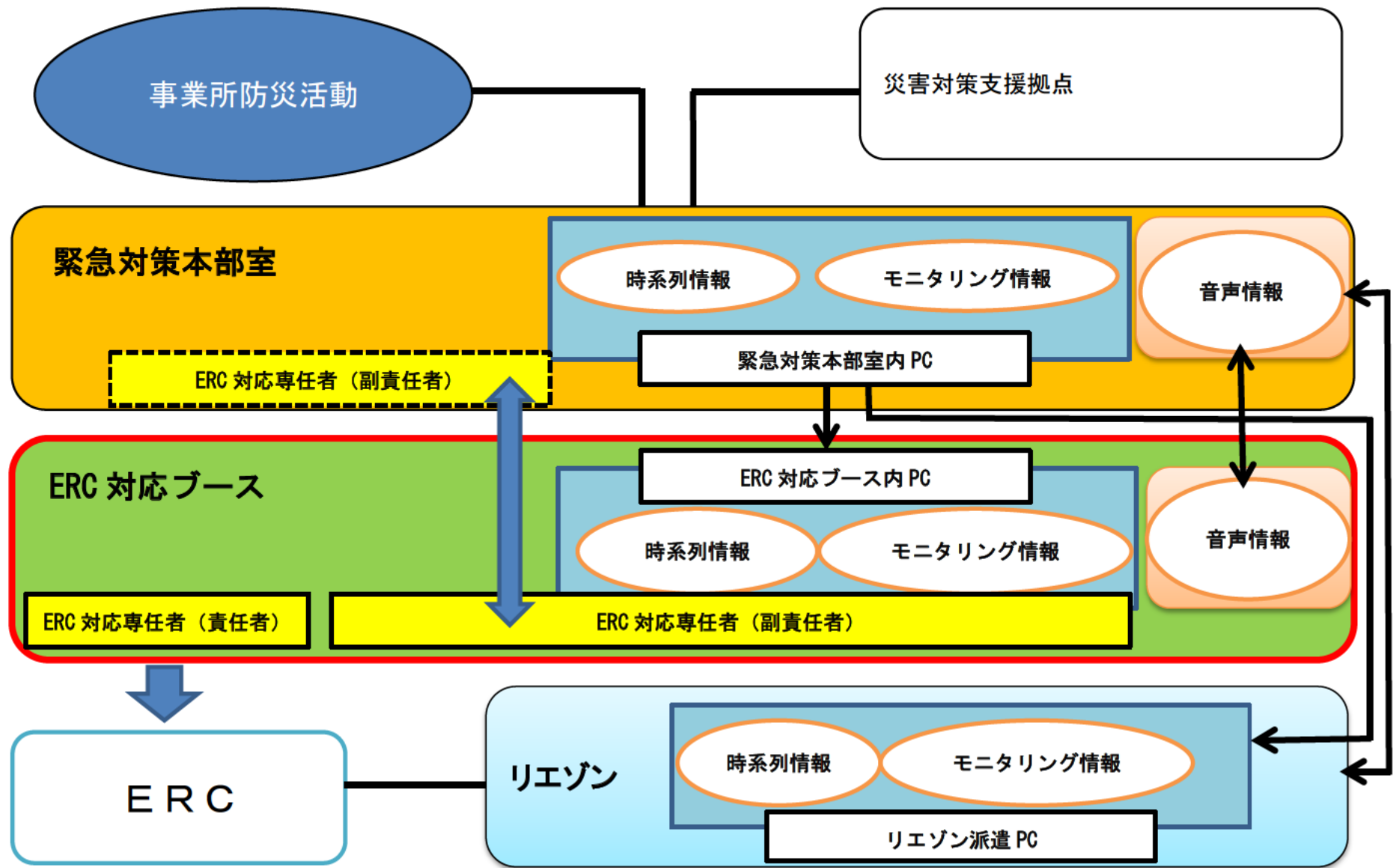
- **本** : 防災管理者(本部長)
- **副** : 副防災管理者(副本部長)
- **核** : 核燃料取扱主任者
- **P** : 核物質防護管理者
- **技** : 技術係
- **1** : 情報1係
- **2** : 情報2係
- **総** : 総務広報係
- **放** : 放管係
- **工** : 工務係
- **除** : 除染係
- **救** : 救護・消火係
- **警** : 警備・誘導係

- **調** : 調達係
- **施** : 施設責任者
- **FAX** : FAX(コピー機兼用)
- **コピー** : コピー
- **プリンタ** : プリンタ
- **プロジェクター** : プロジェクター
- **プロジェクター用スクリーン** : プロジェクター用スクリーン
- **PC** : PC
- **モニタディスプレイ** : モニタディスプレイ

- **TV会議装置** : TV会議装置
- **電話会議装置** : 電話会議装置
- **書画カメラ** : 書画カメラ
- **有線マイク** : 有線マイク
- **ワイヤレスハンドマイク** : ワイヤレスハンドマイク
- **ワイヤレスピンマイク** : ワイヤレスピンマイク
- **スピーカー** : スピーカー

## 常設機器類

- ① : 放射線監視モニタリングシステム
- ② : 警報集中表示盤
- ③ : 第2加工棟監視カメラシステム
- ④ : 総合気象観測装置
- ⑤ : 漏水集中表示盤
- ⑥ : 焼却設備警報表示盤2
- ⑦ : 複合火災受信機
- ⑧ : 放射線監視装置
- ⑨ : 停電時電源切替用分電盤
- ⑩ : 専用ファクシミリ装置(原子力防災資機材)
- ⑪ : 専用携帯電話(原子力防災資機材)
- ⑫ : 衛星電話(その他の原子力防災資機材)



情報フロー図

## 原子力防災要員の役割分担

防災組織の係名	原子力防災要員の役割	人数
原子力防災管理者	緊急対策本部を統括管理、官公庁等への通報を指示する。	1名
副原子力防災管理者	緊急対策本部の統括について原子力防災管理者を補佐する。 E R Cプラント班の対応を行う。	3名以上
情報1係	特定事象が発生した場合における当該特定事象に関する情報の整理及び主務大臣、関係地方公共団体の長その他の関係者への連絡調整を担当する。	2名以上
情報2係	原子力災害合同対策協議会における原子力緊急事態に関する情報の交換及び緊急事態応急対策についての相互協力を担当する。	2名以上
総務広報係	特定事象等が発生した場合における広報活動を担当する。	2名以上
放管係	事業所内外の放射線量の測定その他特定事象に関する状況の把握を担当する。	2名以上
技術係	原子力災害の発生又は拡大防止のための措置に関する措置の実施を担当する。	2名以上
工務係	防災に関する施設又は設備の整備及び点検並びに応急の復旧を担当する。	2名以上
除染係	放射性物質による汚染の除去を担当する。	2名以上
救護・消火係	被ばく者の救助その他の医療に関する措置の実施及び消火活動を担当する。	2名以上
調達係	原子力災害の発生又は拡大防止のために必要な資機材の調達及び輸送を担当する。	2名以上
警備誘導係	事業所内の警備及び事業所内における従業員の避難誘導を担当する。	2名以上



## COP1 事故・プラントの状況

年 月 日 時 分

発生した事象（事故）の概要

--

事故発生前状況

作業場所	作業内容	管理区域等	核燃料物質等の取扱
第1加工棟		第2種・周辺	あり・なし
第2加工棟		第1種・第2種・周辺	あり・なし
第1廃棄物貯蔵棟		第1種・第2種・周辺	あり・なし
第2廃棄物貯蔵棟		第2種・周辺	あり・なし
第3廃棄物貯蔵棟		第2種・周辺	あり・なし
第1-3貯蔵棟		第2種・周辺	あり・なし
発電機・ポンプ棟		周辺	なし
非常用発電機No.2		周辺	なし



## COP3 ウランの状況(第2加工棟)

年 月 日 時 分

施設	実際量(t-U)	最大量(t-U)
第2-1貯蔵室		37
第2-2貯蔵室		41.2
第2-1混合室 酸化ウランペレット: 酸化ウラン粉末又はそのスクラップ:		0.35 0.3
第2-1ペレット室		0.85
第2-2混合室 酸化ウランペレット: 酸化ウラン粉末又はそのスクラップ:		0.45 0.84
第2-2ペレット室		0.45
第2ペレット保管室		38

施設	実際量(t-U)	最大量(t-U)
第2-2燃料棒加工室		3.4
第2燃料棒保管室		41
第2集合体保管室		149
第2梱包室		15.3
第2輸送容器保管室		19.2
第2開発室		0.083
第2分析室		0.022



## COP4-1 機器の運転状況(燃料製造設備)

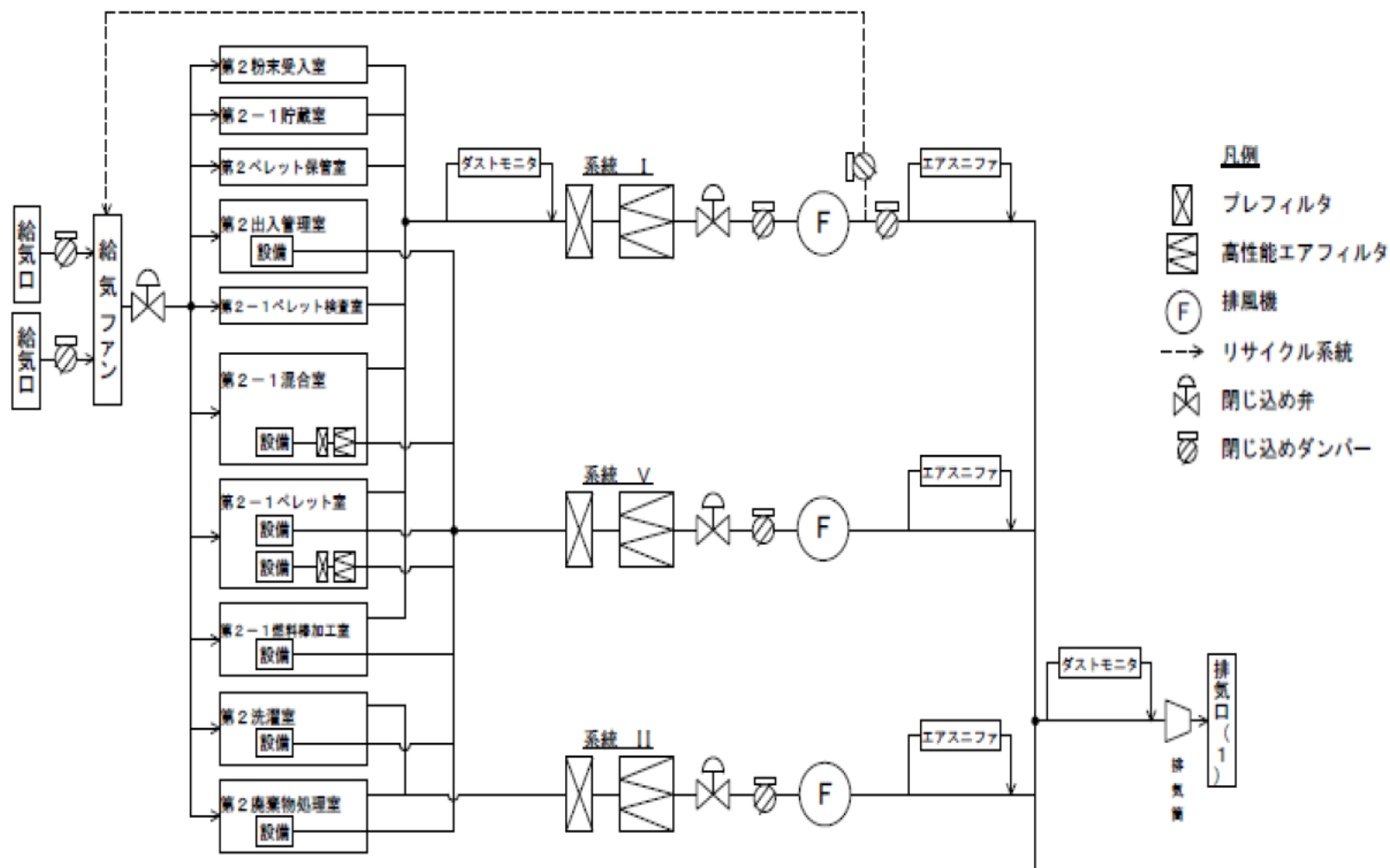
年 月 日 時 分

設置場所	施設名称	運転状況
第2-1混合室	粉末投入台	
	粉末混合機	
	大型供給瓶	
	焙焼設備	
第2-1ペレット室	圧縮成形設備	
	連続焼結炉	
	研磨設備	
	検査設備	

設置場所	施設名称	運転状況
第2-2混合室	粉末投入機	
	粉末混合機	
	供給瓶	
	圧縮成形設備	
	焙焼設備	
第2-2ペレット室	連続焼結炉	
	研磨設備	
	検査設備	

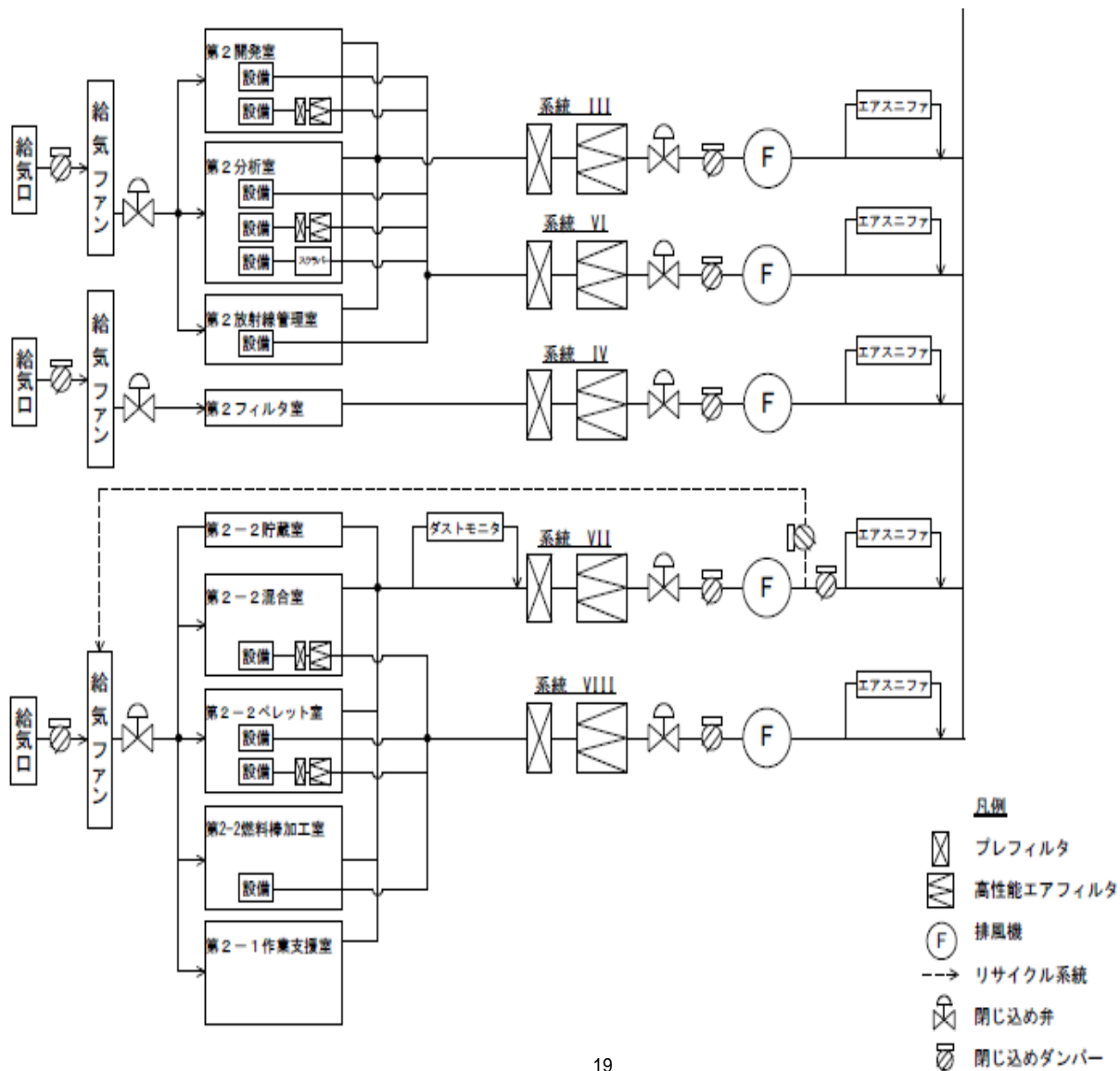
## COP4-2 機器の運転状況(給排気設備)

年 月 日 時 分



# COP4-3 機器の運転状況(給排気設備)

年	月	日	時	分
---	---	---	---	---



## COP5-1 EAL判断シート

## 警戒事態(AL)

該当 (✓を入れる)	連絡判断内容	判断時刻 (原子力防災管理者が判断した時刻)
	熊取町において、震度6弱以上の地震が発生した場合 【震度： <input type="text"/> 】	：
	大阪府を津波予報区とする大津波警報が発表された場合	：
	オンサイト総括が警戒を必要と認める当該原子炉の運転等のための施設の重要な故障等が発生した場合	：
	その原子炉の運転等のための施設以外に起因する事象が原子炉の運転等のための施設に影響を及ぼすおそれのあることを認知した場合など、委員長又は委員長代行が警戒本部の設置が必要と判断した場合。	：

COP5-2 ① (1/2) EAL判断シート

施設敷地緊急事態 (SE) 【原災法第10条該当 特定事象】

放射線量・放射性物質放出

※SE02及びSE03発生時は、その時点でGE02及びGE03となる。

該当 (√を入れる)	EAL 番号	EAL略称	連絡判断内容	EAL該当時		EAL非該当時	
				測定値等	判断時刻 (原子力防災 管理者が判断 した時刻)	測定値等	判断時刻 (原子力防災 管理者が判断 した時刻)
	SE01	敷地境界付近の放射線量の 上昇	【モニタリングポストによる測定】 ・1ヶ所で 5 $\mu$ Sv/h以上の $\gamma$ 線量を検知 又は ・1ヶ所で 1 $\mu$ Sv/hの $\gamma$ 線量を検知し、中性子線 サーベイメータの測定値との合計値が5 $\mu$ Sv/h以 上の場合	$\Gamma$ 線 _____ $\mu$ Sv/h $\Gamma$ 線+中性子線 _____ $\mu$ Sv/h	:	$\Gamma$ 線 _____ $\mu$ Sv/h $\Gamma$ 線+中性子線 _____ $\mu$ Sv/h	:
	SE02 GE02	放射性物質通常経路での気 体放射性物質の放出 (SE02 = GE02)	【固定ろ紙式排気モニタによる監視】 ・排気口において下記の基準値を超える放射能を検 知した場合 第2加工棟…………… $1 \times 10^8$ Bq 第1廃棄物貯蔵棟…………… $1 \times 10^7$ Bq	第2加工棟 _____ Bq 第1廃棄物貯蔵棟 _____ Bq	:	第2加工棟 _____ Bq 第1廃棄物貯蔵棟 _____ Bq	:
	SE03 GE03	放射性物質通常経路での液 体放射性物質の放出 (SE03 = GE03)	【バッチ式による排水中放射性物質濃度の測定】 ・1Bq/cm <sup>3</sup> を超えた排水の敷地外放出した場合	_____ Bq/cm <sup>3</sup>	:	_____ Bq/cm <sup>3</sup>	:
	SE04	火災爆発等による管理区域 外での放射線の放出	【線量当量率サーベイメータによる測定】 ・50 $\mu$ Sv/h以上の放射線量を10分以上継続検知 した場合	_____ $\mu$ Sv/h・10分	:	_____ $\mu$ Sv/h・10分	:
	SE05	火災爆発等による管理区域外 での放射性物質の放出	【ダストサンプラによる空气中放射性物質濃度の測 定】 ・空气中濃度が $5 \times 10^{-7}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )を超えた場合	_____ Bq/cm <sup>3</sup>	:	_____ Bq/cm <sup>3</sup>	:

COP5-2 ② (2/2) EAL判断シート

放射線量・放射性物質放出  
事業所外運搬

施設敷地緊急事態 (SE) 【原災法第10条該当 特定事象】

該当 (✓を入れる)	EAL 番号	EAL略称	連絡判断内容	EAL該当時		EAL非該当時	
				測定値等	判断時刻 (原子力防災 管理者が判断 した時刻)	測定値等	判断時刻 (原子力防災 管理者が判断し た時刻)
	SE06	臨界のおそれ	・管理区域内に設置したγ線エリアモニタの複数発報した場合		:		:
	SE55	防護措置の準備及び一部実施が必要な事象発生	・事業所周辺にて、緊急事態に備えた防護措置準備及び防護措置の一部の開始が必要である事象が発生した場合		:		:
	XSE61	事業所外運搬での放射線量の上昇	・事業所外運搬中の輸送容器表面から1m離れた場所にて100μSv/h以上の放射線量が認められた場合	_____μSv/h・at 1m	:	_____μSv/h・at 1m	:
	XSE62	事業所外運搬での放射性物質の漏えい	・アルファ線を放出する放射性物質(輸送物であるウラン)が輸送物表面が0.4Bq/cm <sup>2</sup> を超えて認められた場合(輸送時の放射性物質表面密度が限度値を超えた場合)	_____Bq/cm <sup>2</sup>	:	_____Bq/cm <sup>2</sup>	:

## COP5-3 ① (1/2) EAL判断シート

## 放射線量・放射性物質放出

## 全面緊急事態 (GE) 【原災法第15条該当 特定事象】

該当 (✓を入れる)	EAL 番号	EAL略称	連絡判断内容	EAL該当時		EAL非該当時	
				測定値等	判断時刻 (原子力防災管理者 が判断した時刻)	測定値等	判断時刻 (原子力防災管理者 が判断した時刻)
	GE01	敷地境界付近の放射線量の上昇	【モニタリングポストによる測定】 ・2ヶ所で5 $\mu$ Sv/h以上の $\gamma$ 線量を検知した場合 又は下記を10分以上継続して検知した場合  ・1ヶ所で5 $\mu$ Sv/h以上の $\gamma$ 線量を検知 又は1ヶ 所で1 $\mu$ Sv/h以上の $\gamma$ 線量を検知し、中性子線 サーベイメータの測定値との合計値が5 $\mu$ Sv/h 以上の場合	$\gamma$ 線 _____ $\mu$ Sv/h _____ $\mu$ Sv/h _____ $\mu$ Sv/h・10分 $\gamma$ 線+中性子線 _____ $\mu$ Sv/h・10分	:	$\gamma$ 線 _____ $\mu$ Sv/h _____ $\mu$ Sv/h _____ $\mu$ Sv/h・10分 $\gamma$ 線+中性子線 _____ $\mu$ Sv/h・10分	:
	GE02	放射性物質通常経路での気体放射性物質の放出	・施設敷地緊急事態 (SE02) と同じ				
	GE03	放射性物質通常経路での液体放射性物質の放出	・施設敷地緊急事態 (SE03) と同じ				
	GE04	火災爆発等による管理区域外での放射線の異常放出	【線量当量率サーベイメータによる測定】 ・5mSv/h以上の放射線量を10分以上継続して 検知した場合	_____mSv/h・10分	:	_____mSv/h・10分	:
	GE05	火災爆発等による管理区域外での放射性物質の異常放出	【ダストサンプラによる空气中放射性物質濃度の測 定】 ・空气中濃度が $5 \times 10^{-5}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )を超えた場合	_____Bq/cm <sup>3</sup>	:	_____Bq/cm <sup>3</sup>	:

COP5-3 ② (2/2) EAL判断シート

放射線量・放射性物質放出  
事業所外運搬

全面緊急事態 (GE) 【原災法第15条該当 特定事象】

該当 (✓を入れる)	EAL 番号	EAL 略称	連絡判断内容	EAL該当時		EAL非該当時	
				測定値等	判断時刻 (原子力防災 管理者が判断し た時刻)	測定値等	判断時刻 (原子力防災 管理者が判断 した時刻)
	GE06	臨界の発生	・施設敷地緊急事態 (SE06) と同じ判断基準 かつ 中性子サーベイメータにより継続的に中性子を検出した 場合	管理区域内に設置したγ線 エリアモニタの複数 ( 箇所) 発報し、 中性子線 _____μSv/h	:	管理区域内に設置したγ線 エリアモニタの複数 ( 箇所) 発報し、 中性子線 _____μSv/h	:
	GE55	住民の避難を開始す る必要がある事象発 生	・事業所周辺住民の屋内退避を開始する必要がある事 象が発生した場合		:		:
	XGE61	事業所外運搬での放 射線量の異常上昇	・事業所外運搬中の輸送容器表面から1m離れた場所 において10mSv/h 以上の放射線量が認められた場 合	_____mSv/h-at1m	:	_____mSv/h-at1m	:



**事象：**  
**場所：**

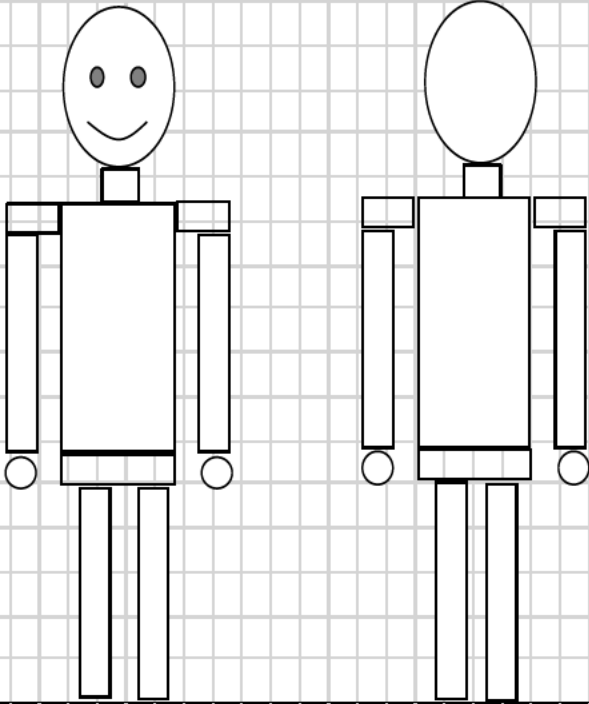
COP6 事故収束対応シート

年 月 日 時 分

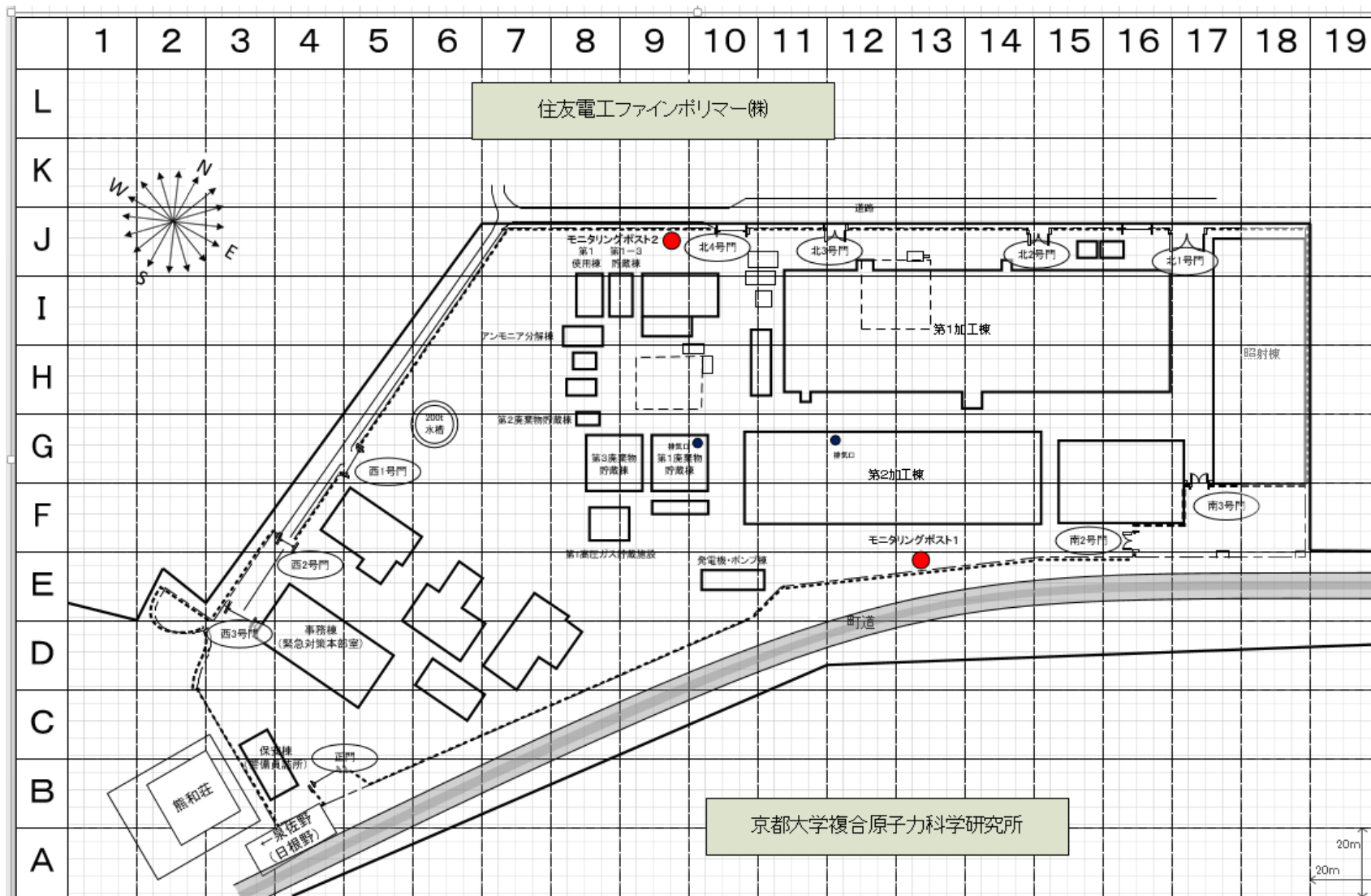
基本戦略  
・  
・

順位	施設名	目的	方法	担当	作業時間			状況	結果
						開始	終了		
					予定	:	:	分	
					実績	:	:	分	
					予定	:	:	分	
					実績	:	:	分	
					予定	:	:	分	
					実績	:	:	分	
					予定	:	:	分	
					実績	:	:	分	

# COP7 負傷及び身体汚染状況シート

被災者身体 (負傷部位および汚染箇所をマーキングする。)		部位	負傷有無 (負傷部位に○を入れる)	出血有無 (出血があれば○を入れる)	除染前		除染後	
					計数値(cpm)	表面密度(mBq/cm <sup>2</sup> )	計数値(cpm)	表面密度(mBq/cm <sup>2</sup> )
		頭						
		顔						
		首						
		肩						
		胸						
		右手						
		右腕						
		左手						
		左腕						
		腰						
		右足						
		左足						
						バックグラウンド (B・G)		

# COP8 熊取事業所グリッドマップ



原子燃料工業(株) 熊取事業所 グリッド番号図